

## 会 議 録

□全部記録 ■要点記録

<b>1 会議名</b>	姫路市総合計画策定審議会 第4分科会 第3回会議
<b>2 開催日時</b>	令和元年11月11日（月曜日） 14時00分～16時04分
<b>3 開催場所</b>	姫路市役所 北別館3階 講義室
<b>4 出席者又は欠席者名</b>	姫路市総合計画策定審議会委員 第4分科会 委員 12人中 10人（1人欠席、1人代理） 姫路市総合計画策定審議会参与 5人中 1人
<b>5 傍聴の可否及び傍聴人数</b>	傍聴可（5人） 傍聴人（0人）
<b>6 議題又は案件及び結論等</b>	1. 開会 2. 事務局説明 3. 審議 4. その他 5. 閉会
<b>7 会議の全部内容又は進行記録</b>	詳細については別紙参照

事務局	1 開会 (14:00)
分科会会長	2 事務局説明 ・「当日資料1 新総合計画における地方創生の考え方について」、事務局から説明をお願いします。
事務局	[説明資料] 当日資料1 新総合計画における地方創生の考え方について
分科会会長	・今の説明についてご意見・ご質問はあるか。
委員	・人口の減少が一番の問題だと思っていて、他の分科会でも自治会の人手不足に関する話題が出ている。そのような中、目標人口51万人というのはいかなものか。これが作られた2014-2019年には他の予測もあったと思う。このような計画では、A案(良い)、B案(普通)、C案(悪い)といった複数のケースを想定しておくべきである。都市マネジメントとして、税収等は人口によるため、予算は人口が減ると制約を受ける、そのようななかで福祉等への予算の配分は課題になってくると思われる。今回も10年の計画であるが、途中に一度見直しをかけて、このままいくかどうか、数字的なバックをはっきりさせると良いものになるのではと思う。
事務局	・今掲げている人口目標の51.8万人という数字は、ひめじ創生戦略の中で2060年の人口目標を約47万人として掲げており、そのトレンドに従った場合の2030年の数値が51.8万人であり、これは前回もご説明したと思う。このベースとなっている人口は2010年の国勢調査で国立社会保障・人口問題研究所が出しているものである。その後2015年にも国勢調査があり、2010年から2015年の5年間で、姫路市においては想定よりも人口減少が少なかった。それを使ってもう少し良い目標を立てることもできるが、厳しい方の目標でそのまま設定したというのが今回の経緯である。 ・人口が減少すると税収も減り財源も厳しくなる。それに基づいた計画づ

委員	<p>くりをしていく必要はあると思うが、それは今の審議会の意見を参考にし て、実施計画の中で精査して事業に反映していきたいと思っている。</p> <p>・途中での人口の見直しはどうか。10年は長い。普通は3年ごとくらいで はないか。</p>
事務局	<p>・実施計画は3年間の計画とするが、毎年ローリングをする形で見直しを 考えているが、その中で基本構想の掲げる目標まで変えていくと計画がぶ れてしまうので、そこは変えない予定である。</p>
委員	<p>・突発的な何かがあったときには、そこで対応をするということか。</p>
事務局	<p>・よほどの大きなことがあれば考える。</p>
分科会会長	<p>・他にないか。</p> <p>・では、「当日資料2 第2回会議 意見一覧」について事務局から説明 をお願いします。</p>
事務局	<p>[説明資料] 当日資料2 第4分科会第2回会議 意見一覧</p>
分科会会長	<p>・前回の審議していただいた内容について、特に分野目標等の文言を修正 するようなどころについてご説明いただいた。この意見一覧について、特 に発言された委員の方など、内容についてご質問はあるか。</p>
委員	<p>・他の分科会での意見の「農林水産業だけでなく」という意見について、 前回の議論で、京口駅前の市営住宅が空きになっているという話をしたと 思うが、そういったところは産業分野での話と繋がってくる。我々のチー ムでもそういう話が出ているので、ここに載せられている意見と私たちの 話が重複しているのだから、これは重要な項目であるということを事務局 は認識しておいてほしい。ここに紹介するというだけでなく、第4分科会 でも同様の意見が出たという繋がりを残しておいていただければ、正副会</p>

	<p>長会議の時にでも、そこに重きを置いて扱うことができると思う。そうすれば出した意見も無駄にならないし、分科会同士が有機的に繋がるのではないかと思っている。</p>
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の分科会での意見については、同じようにこちらの分科会でも出たということクロスさせればいい。それをお互いにかみ合わせて文章化するということができれば良い。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そのようにさせていただくつもりである。</li> </ul>
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他にないか。</li> <li>・では、前回までのまとめはここまでとして、次第3 審議に移る。</li> </ul>
分科会会長	<p>3 審議</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の都市基盤分野に続いて、今回は、防災・安全安心分野がテーマである。資料3の「分野目標（案）」「政策（案）」について事務局から説明をお願いします。</li> </ul>
事務局	<p>[説明資料] 資料3 防災・安全安心分野</p>
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災・安全安心分野のテーマについて全体的な説明をしていただいた。前回のテーマの時と同様に流れとしては、まず10ページ資料3の分野目標について最初におうかがいするのが順番であるが、今日は2つのテーマがあるので、それをまず審議いただき、その結果を踏まえてこの目標でよいか戻って検討する形で進めたい。</li> <li>・政策1「災害に強いまちづくりの推進」（11、12ページ）についての内容に入る。事務局からは審議いただきたいこととして右下に3点あげられている。まずは「目指す姿」についてご意見をいただきたい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前にもお話ししたが、災害事前復興計画の項目をどこかに入れていただきたい。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南海トラフ地震の被害想定を見ているが、こちらには火災の想定は入っていないのか。都市の地震の時には火災がとても大きな課題になるのだが、想定はされていないのか。</li> <li>・姫路の中央卸売市場を白浜地区に移されるが、その被害想定は、対策は考えているのか。</li> <li>・都市計画全体に関わるようなひどい災害は起きていない想定になっているので、事前復興計画が必要かどうか検討は必要かと思う。</li> <li>・また、強みのところで、自衛隊の基地があることは明記できないのか。</li> <li>・外部環境について、災害の激甚化が書かれているが、広域化しているというのも一つの特徴である。災害への対策や体制について他の自治体との連携協定を結ばれているが、それをもう少し広域化していくべきではないか。四国や近畿など広域の防災計画を作られてはどうか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前復興計画の策定については、他都市の状況や必要性も含めて今後検討させていただく。</li> </ul>
事務局（危機管理室長）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10ページの被害情報について、建物倒壊件数等は火災によるもの、土砂災害、津波なども含めた合計である。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中央卸売市場の建設については、建築基準法に基づいて基準にあった建物をつくる。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ここで何を心配しているかということ、市民の食糧の大事なところであるので、これが倒壊するようなことがあると市民生活に非常に影響があるので事前の対策が必要であると思っている。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南海トラフが起きると、機能自体を維持するのは難しいと思うが、できるだけ計画的に早く復旧できるようにするということになると思う。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の分科会で、農業について書かれているところがあるが、市場に出されている野菜が非常に少ないのは問題だと思う。また、他の大都市ではあ</li> </ul>

	<p>る都市農業という分野が姫路ではない。都市農業を含め、災害の時に食料確保で重要になるのは農家の存在なので、そこの観点から何かできないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今は、イーグレのところにアンテナショップを出されたり、神姫バスさんも駅前でもショップをしておられるので、そういうところは災害時の復旧計画の中に入ると思うが、南海トラフ地震のケースでは、そこまで危機管理を想定していたほうがよい。</li> <li>・先日の台風19号による災害が発生した際、被害を受け断水した神奈川県山北町で、自衛隊が給水を行える状況であったにもかかわらず、県から要請が無かったため給水車をUターンさせた、という事態が起こっている。そのようなことが姫路市では起こらないようにするため、自衛隊を総合計画の中に明記していただきたい。</li> </ul>
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的に自衛隊は都道府県知事からの要請でないと動けない。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・詳細は聞いていないが、いずれ県から給水についても応援の要請があるだろうと給水車を派遣したが、県と山北町で調整が上手くいかなかったため起こった事態であると聞いている。</li> </ul>
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県が要請を出さなければ、組織上、自衛隊は動けない。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国の機関として日頃から顔の見える関係を築いておきたい。宍粟市の方に災害派遣で人命救助に行ったが、県の災害対策局長と頻りに会っているし、宍粟市は私の部下で担当している者がいるので、災害派遣要請がかかったときに、朝までには被災現場に行くまでの経路など全て決まっていたスムーズに動けた。そのように日頃から市とも連絡を取り合っているのが良い。</li> <li>・不幸にも大きな災害が起きてしまったときについて、私は東日本大震災で宮城県に派遣され、去年は倉敷に行った。そこでつくづく思うのは市町の首長や役所の方のリーダーシップが災害時には非常に重要である。我々は人命救助の段階ではがむしゃらにあらゆる装備品等を使ってやるが、72</li> </ul>

	<p>時間を終えた後は、首長や役所の方のリーダーシップで動きに差がでてくる。こういった機関であるため自衛隊が主体的にできる部分は限られる。例えば、毎日定期的集まって、警察・消防を含めここはああして、こうしてといった具体的なことを備蓄物資の運搬から、災害で廃棄するものの撤去までどうするかを一生懸命やってくれるところはスムーズに行く。倉敷では強引なくらいのリーダーシップが発揮されていると実感した。そういったことが全くないと我々は動きようがないところがある。実体験としてそのように思うため、市町の方がリーダーシップを持って動いてくれればと思う。</p>
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・貴重なご意見をいただいた。その通りだと思う。</li> <li>・そういう意味で、大きな災害が起きた時には、姫路市の市長さんや役所の方のリーダーシップがその後のことを決めるというのが良く分かった。</li> </ul>
分科会副会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政がリーダーシップをとった後は、地元の各団体がそれを繋いで、地域の皆さんが安心できるような、災害の後の精神的なケアをいかにできるかが重要だと思っている。そのために、自治会の自主防災の体制の中に、女性のリーダーを作って体制を構築してもらわないといけない。</li> <li>・一方で、自主防災の自治会のリーダーでさえ地域によっても温度差があって、自分のところに被害が無いと訓練も全然やる気がない人もいる。避難所のケアなど女性にしかできないこともあり、その勉強を市民もすべきである。昨日の訓練も来賓の後ろの観客は今までにないくらい少なかった。何事もないときこそ市民みんなが学ぶ機会を市もきちんと作らないといけない。</li> <li>・話は変わるが、中央市場の話がでたが、中央市場を通らずに口に入っている食材がたくさんある。私たちは地産地消で、中央市場を通した八百屋で地元のモノを買おうと思っているがなかなか難しい。中央市場は災害の時に食材を確保できる力があるから中央市場であるが、中央市場を通さないものばかりを安易に買っていると、中央市場が弱体化し、災害の時に外から物資が拠点である市場に届かなくなる。そのことを市民みんなにわかってもらえればと考えて、連合婦人会では消費者協会の勉強もしている</li> </ul>

委員	<p>が、まずは市民にそのような勉強の場に出てきてもらえないと学んでもらえない。一部の市民だけが勉強していても、災害があったときにその他の市民がどうしたらいいかわからない状況になるのではないかと思う。若い人たちにこそ、そういった非常時の対応など勉強をしてもらわなければだめだと思っている。地域の団体としても、そのような人たちに参加してもらえそうな環境にしなければいけないと考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・また、別の分科会ではNPO法人と地縁団体を同じようなものと考えているようだが、それは全く違う。結局、地元の民生委員や色んな人と繋がっているのは自治会単位であり、NPO法人は地元には入り込んでいない。全く違うということをしっかり捉えてくれないと困る。</li> <li>・今、副会長が言われている部分は、我々各種団体として動くときにもっと市民に参加していただいて、我々が動きやすいように、全体で安心安全をつかんでいこうというようなことを言われているが、それはそのとおりであるが、今日の事務局の説明の時に「姫路市はこういったことを進めています」と言われたが、その進めていることをどれだけの姫路市民が知っているのか。</li> <li>・姫路にはFM GENKI、WINKをはじめいろいろな報道機関があるので、それを利用して、姫路市はここまで考えて危機管理をしているということをもっと市民に対してアピールして、市民の意識を向上していただければ、我々団体として動きやすいシステムに繋がってくると思う。市として市民にどれだけのことをしているかを知らしめるパンフレットなりを作ってはどうか。アピールをしていくことが大事である。</li> <li>・これだけ素晴らしいことを市役所が考えて進めているにも関わらず、我々も全てを知っているわけではないので、市役所として市民のためにこれだけのことをしているということのアピールして、姫路が住みやすいまちだとの印象を持ってもらえれば、最初の目標人口の達成にもつながる。</li> </ul>
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全般的な核心の部分の意見であると思う。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・11ページの右下、2「目指す姿を実現するための方向性」アの「自助、</li> </ul>



委員	<p>共助、公助の役割分担」について、兵庫県のフェニックス共済は、災害で住居が被害を受けた場合、年額5千円の負担で6百万円が給付されるが、年額5千円は高いので、姫路市民であれば半分とか1／3くらいで入れるようにしてはどうか。</p> <p>・台風19号で関東地方はいろいろなことがあったが、姫路市の中でため池等が決壊するといったことには触れられていなかったので含めてほしい。姫路市では沈んでしまうようなところはないのかもしれないが、ダムが奥にあるのでそういったことも考えてもらわないといけない。</p> <p>・ため池等の決壊はあるかもしれないと考えてもらわないといけない。</p> <p>2011年の9月の台風で、市川が増水して、決壊ギリギリの水位になったことがある。その時に支流から流れる水が市川から押し戻される形になり、あふれてボートで人命救助をしたことがある。姫路市でも、そういった危険な災害にあった過去もあるが、市民の危機管理意識が足りない。台風19号がこの地区に来たことを想定したら、もしかしたら市川や揖保川も決壊するかもしれない。兵庫県の生野ダムも放水すると、砥堀の生野橋のところで水位が上がるまで4時間かかる。放流して雨が降ってとなると姫路もどうなるかわからない。</p> <p>・水害が非常に怖いということをもっと市民が自分事としてとらえることが重要である。岡山、千葉、長野にしても「80年生きてきて初めて」というような災害ばかりである。なぜ災害に対して様々な対策が必要なのかを根本から市民に知らせ、意識を高めなければいけない。今言われたため池や河川を各自治会はおそらく知っていて、危機管理上ここが危険だということは知らされているはずである。行政的な危機管理体制ももちろん大事だが、いかに怖いかという意識を市民に広めるのが大事だと思う。</p>
委員	<p>・今の話は防災に対して県にもあてはまる。しかし総合計画を考える時、それぞれ防災の計画も別にある中で、市全体の事を記載する総合計画では防災分野をどのように位置付けて、個別のため池や河川の対応といったことは姫路市の防災の個別計画があるので、そこで考える必要がある。総合計画と個別計画の住み分けという観点が必要である。</p>

委員

・もちろん、国・県・市にはそれぞれの役割がある。市の役割としては住民にどうお知らせをするのか、防災計画の中に細かい災害が起こったときの計画があり、復旧をどのように考えるかということがある。市民に災害の危険をどう知らせ、危機意識を醸成していくか、自治会や、先ほどのお話にあった婦人部をつくるのか、そういったところは市の役割だと思うので、色々なご意見があったことについて、それぞれをどの計画にどう位置付けるのかということについて、事務局で整理が必要である。

・今の話を全て総合計画に入れるともものすごく細かい話になる。事務局では今の意見について、別の計画に位置付けられていてこんな広報をする、体制はこうする、自衛隊他関係機関との位置付けはどうかといったことを整理する必要がある。意見は意見として県でも重要と考えている。

・私も同じかもしれないが、国としてもハード整備はしっかり進めていく。ハードで守れる範囲については限界もあるので、しっかり広報もしているつもりだが、それがどこまで伝わっているかということはある。また、ハードを進めていても、まだ守れない地域があるということもきちんと認識していただく必要があり、その次はハードとソフトの連携になってくると思う。

・ソフトの部分で避難については市の方でやられるが、その避難のベースとなるもの、水害でいえばハザードマップは市で作るが、そのベースとなる浸水想定は我々が出させてもらっている。そういう意味で自助・共助をどのように進めるかは国としても市と連携して進めていかないといけないと思っている。

・浸水した時にはこのようなことがあるという全国の事例や恐ろしい映像など、リアリティを伝えるコンテンツもあるので、市が自主防災組織や自治会で説明会をするときには国も出かけていくなど、そういった面で連携して進めていければと思っている。

・意識を高めていく施策としては色々なやり方があるので、どこまで落とし込むかは、地域の特性に応じてということになると思うが、市と連携してやっていきたい。

委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災マップを作ってくれているが、これは何年ごとに更新しているのか。自然環境が変わってきていて、想定外のことが起きている。今はここまでと言われているがひょっとしたらもっとくるかもしれないということを市民としても知っておきたい気持ちもある。</li> </ul>
事務局（危機管理室長）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・洪水ハザードマップは計画規模である、50年、100年に一回に起きる水害に対するものを現在配っているが、国・県の方でこのたび1000年に一回といった想定を出してきているので、姫路市でも来年度以降新たなハザードマップを作成していく。そのように想定が変われば新たなものを作成するような形になる。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・停電については、姫路が停電したらどうするのか。市民に連絡したりすることもできなくなるのではないか。</li> </ul>
事務局（危機管理室長）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災センターについては72時間の自家発電があるので、まずはその中で対応となるが、それ以降も燃料をさらに加えて延長することも可能である。また、関電やNTTに援助をお願いするなどの対応を考えているが、実際にどれくらい対応できるかはわからないので、連携を深めていく。</li> </ul>
分科会副会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・FM GENKIはそのような緊急時のためのラジオ局である。いま、災害時のために手回しラジオを各自が持つようにすすめているが、手回しラジオでは意外と電波が入らない。車ではよくキャッチできる。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・FM GENKIはそういった時のためのラジオ局としてできた局である。ラジオは乾電池だけでも受信できる。試したところ乾電池だけでも一週間は受信し続けることができた。こちらも発信を続けることができるよう非常用の電源設備も整えている。</li> <li>・姫路市も広がってしまっていて、全域とはいかないところもあるが、広い範囲で受信可能である。</li> </ul>
参与	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先日、視察で諫早市の防災対策、防災無線について勉強させていただい</li> </ul>

	<p>た。諫早市ではラジオを一台2500円で販売している。それは電源オフでも非常時では防災の情報が流れるといったものである。また、防災無線があり、テレビも特設チャンネルを持っていて、そういった複数の中でどれか一つでも情報をキャッチできるような体制を作っている。今、姫路市の防災無線はデジタル化をしており、国の補助もあるので、そういった取り組みを進めていくことは重要である。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各校に防災倉庫があると思うが、そこに発電機は入っているのか。</li> </ul>
事務局（危機管理室長）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2台入っている。</li> </ul>
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間も迫っているので、13ページ、14ページの政策2「安全安心な暮らしの確保」に移る。目指す姿、及び方向性について主な検討課題が5つ挙げられているがいかがか。</li> </ul>
参与	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画を数値化していく考え方は分かる。様々な分野で担い手が少ないという現状はあるが、逆に、スクールヘルパーに関しては、目標値の1万7千人は超えているが中身がなくなってしまうている。数値的なものは良いが、機能しているか機能していないかは別問題である。話は戻るが、自主防災組織も同じで、100%の組織率であったとしても、これは連合自治会、自治会に入っていれば自主防災組織にもなっているものなので、それが果たして災害の時に通用するのか、中身をもう少し考えなければいけないのではないかと思う。具体的なものを作っていたかかないと絵に描いた餅で終わってしまうので、できないものは省いて、できることを具体化して欲しい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちの安全安心を進めるために、市としても安全安心を進めていることを市民に分かってもらうことは非常に必要なことだと思う。</li> <li>・先日、首里城が燃え落ちるという事件があったが、世界遺産の姫路城もスプリンクラーは天守閣と西の丸の2カ所（棟）にしかない。百間廊下には全然スプリンクラーはついていない。ペットボトルにガソリンを入れて</li> </ul>

	<p>持ち込んで撒けば大火事になる。スプリンクラーがあればそこだけで抑えることもできる。西の丸の通路は非常に長く、重要文化財になっており、西の丸があって姫路城があって、全体が世界遺産になっているので、それは守らなければいけない。市としてはこのように、姫路城に対しても、人為的な行為に対する防災、自然災害に対する防災、といった形で様々な可能性を想定して防災対策をすすめていった方がよいのではないかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市として重要文化財、世界遺産の中にスプリンクラーをつけるのは今しかないと思う。首里城があれだけの火災になり原因は漏電と伝えられているが、京都アニメーションの事件のようなこともある。ディズニーランドでも手荷物検査をするのだから、姫路城でもそういうことも今後考えていかなければいけないと思う。</li> </ul>
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・首里城は非常に大きな火災で、姫路城もそうならないために予防策を考える必要がある。今の時期だからこそ言えることもあるので、少し検討いただければと思う。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・姫路城の管理所管はどこか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・姫路市である。</li> </ul>
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ただ、文化財保護法もあるので、なかなか難しい規制がある。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・首里城の火災を受けて、市としても姫路城の点検をして、漏電などは大丈夫だという点検結果だったようである。</li> </ul>
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・危険なことがあったときの対応はなかなか難しいと思うがどこか片隅にでも置いていただければと思う。</li> <li>・私の専門分野では検討課題のエ「インターネットによる犯罪」やオ「更生を目指す人」が該当する。更生を目指す人を孤立させないということについては、県の安全安心の指針が改定されて私も関わっている。そこで詳しい方針が出ているので、それを参考にして、市で取り入れられることが</li> </ul>

	<p>あればやっていただきたい。犯罪者の更正に関して、再犯防止法ができており、それに基づいて色んな施策を国としても打っているので、それも参考にしていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットによる犯罪の関係は、3月まで県警本部が事務局になっている官民合同プロジェクトの座長をしており、ネット犯罪を含めたサイバー空間の問題に関しても、県警本部から情報発信しているのでそういったものも手掛かりにして、市で何ができるかということの参考にしていきたい。</li> </ul>
分科会副会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市でも消費者保護などの勉強会などを開いてもなかなか人が集まらないのが現実である。</li> </ul>
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サイバー犯罪については、県警でサイバー犯罪教室というのを県警本部のサイバー犯罪課が窓口となってやっており、わかりやすい教室で結構人気がある。各小中高や地域でひっぱりだこになっている。</li> <li>・消費者のものもやっているがなかなか受ける人が少ない。</li> </ul>
分科会副会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今は消費者教育に対し、少し学校教育が入り込み始めている。昨年も全国で初めて消費者教育の発表をしてくれた。少しずつ学校教育に入り込んでいっているので、子どもたちが大人になれば賢い消費者になってくれるだろうと頑張っているところである。</li> <li>・また、スクールヘルパーについて、朝のたった30分でも嫌だという人が多い。老人会の方が一生懸命立ち番をし、寒い中1時間じっと待ってくださっているのが気の毒である。若い人はその時間すらもったいないという話で、自分たちで地元の子どもを守るという気がないのが現実である。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分も立ち番をしており、若い人たちもするべきだとは思いますが、現実的には勤めている人が行うのは難しい。すごく良い取り組みだとは思う。</li> </ul>
分科会副会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時、避難所が開設された時に、いつも街角で会っている「おじちゃん」「おばちゃん」の言うことは、子どもたちも聞いてくれる。それが顔</li> </ul>

<p>分科会会長</p>	<p>の見える関係で、それが安全なまちづくりを行う上では大事である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私も自分の孫は他所の校区なので立っても自分の孫が来るわけではないが、違うところで誰かが孫を見てくれているという、お互いにそういう思いを持って、安全安心なまちをつくっていくということを前提に考える必要がある。</li> <li>・これは犯罪学の鉄則であるが、都会より田舎の方が犯罪発生率が低い。それは、田舎の方が人と人との関係が濃いからである。都会は人がたくさんいてもマンションで隣に住んでいる人がだれかわからない。そういった中では犯罪も起きやすい。姫路の場合は、そういった都会の部分と田舎の部分の両方があるので一律に取組を行っていくことは難しいと思うが、そういう特性がある中で、地域に合わせて人の繋がりを深めていくことができるようにするのが重要。安全安心だけでなく全てのまちづくりに繋がると思う。</li> </ul>
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・隣の人と挨拶ができるというのは大事だと思う。姫路の中でも中心部と田舎とでは、子どもの明るさというか声がだいぶ違う。たつの市の田舎の方ではもっと違う。いじめなどもほとんどない。お爺ちゃん、お婆ちゃんと一緒に住んでいるせいもあるが、その辺で、人間味、温かみを感じた。姫路のまちなかでもみんなが声をかけられるようになるともっと良いと思う。</li> <li>・市が何をしているかを「広報ひめじ」でもっと発信すべき。</li> </ul>
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年配者向けの広報じゃなくて、子どもを中心にした「こども版広報ひめじ」のようなものを年に何度か発行してはどうか。特に災害のハザードマップなどは学校の教材にもなっている。そのような取組を通じて自治会活動なども若い人や子どもたちに知ってもらいと良いと思う。</li> </ul>
<p>分科会副会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会は学校に結構入り込んでいる。こんなことをしているというのは子どももそれなりにわかると思う。</li> <li>・子どもが大人を連れてくるような広報ができれば良いのだと思う。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども向けの広報ひめじを一緒に作りましょう、というような取組を夏休みなどにすればよいのではないか。そこでハザードマップや地震のこと、避難所に行ったらみんなできちんとしようといったことを作ってもらえばよいと思う。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな行事で小さい子どもが参加したら大人もついてくる。</li> </ul>
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この安全安心のところでは具体的な話はあまり出なかったが、戻って10ページの分野目標とその下の1、2の文章についてご意見はあるか。</li> <li>・最後の方に多くの意見が出たが、人と人の繋がりをどうするかということ、しっかりとやっていくのが1、2を解決していくうえで重要なことだと思う。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・我々の分野では、市民に対して市が安全管理や防災でこれだけやっているということ、もっとわかりやすく市民に伝えるというのを目標にしていけば良いのではないか。そうすれば人と人の繋がりも生まれて、我々が出していた意見がつながって輪ができてくるのではないかと思う。</li> <li>・市が自分たちのためにこれだけのことをやっているのだ、ということを押し付けるのではなく、これを利用してくださいと宣伝していくということ、目標にすれば良いのではないか。そこから枝を繋げて行ってこんな政策をしたらどうか、という話になっていくと思う。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・背景のところに「市からの情報発信を強化する」、「人々の繋がりを強くする必要がある」といった内容を入れて、それを踏まえて今の分野目標につながるような構成にする。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後は、FM GENKIにもお手伝いしてもらいながらもっともっと市の取組をアピールしていくと、市もFM GENKIもお互いにやっていることがわかって相乗効果があると思う。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画の中に、防災放送とか一般的なことではなくて、FM GENKIなど個別</li> </ul>



事務局	<p>名を出すことは難しいのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な事業をやっていく中では可能だが、ここでは入れない。</li> <li>・危機管理室が今年の夏に配布した「命のパスポート」、もしくはNTTと協力して作った「防災タウンページ」などの広報を行い、みなさんとお互いに良い所、悪い所をチェックしあえるようにして、もっとこんな情報が欲しいというところで歩み寄って意識を高めていくことだと思う。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市がこの夏実施した冷房設定温度<b>25度</b>の試行の件は非常にメディアに取り上げられてニュースになった。メディアを使うことは非常に大事である。この「命のパスポート」について昨日市長が挨拶の中で話していたが、これがあること自体を市民もどれだけ知っているのかということ。</li> </ul>
分科会副会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・回覧板で、回覧されているものに日付を書くだけでなく、真剣に読みましょう、ということ自治会長さんとかに言ってもらわないといけないと思う。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通事業者からお伝えさせていただきたい。12ページの【治水】【防災】にあたる、雨水に関係するところである。先日の台風19号、低気圧に伴う大雨の影響で、東北の福島交通で<b>160台</b>のバスのうちの<b>90台</b>が水没するという被害があった。現状でもまだ全部運休している線があったり、半分しか復旧していない線があったりという状況で、地域住民の生活にも影響が生じています。このような状況を踏まえ、今回の総合計画の中においても、公共交通事業者の営業所や車庫について、ハザードマップでどこにあるか確認するのは当然であるが、浸水被害の対策として、車両を待避させる場所の確保などで、公共交通の事業を継続していくための協力体制の構築というのを、計画に反映させてほしい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・神姫バスは、今何台あるのか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状、姫路営業所に<b>86台</b>、日出の車庫に<b>37台</b>で、現状<b>123台</b>である。</li> </ul>

委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日出の車庫とかは心配だと思う。</li> </ul>
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そろそろ時間である。なかなかまとまりきっていないが、第4分科会の第3回会議を終わらせていただく。最後に事務局からの連絡をお願いします。</li> </ul>
事務局	<p>4 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度実施した市民アンケート結果でも、防災、防犯、安全関係は非常に関心の高く、本市が取り組む課題としてはかなり重要なものであると認識している。本日のご意見を踏まえて、中間案を作成していきたい。</li> <li>・今後のスケジュールだが、令和2年1月21日（火）2時から、会場を日航姫路に移して、第2回目の全体会議を開催させていただく。会長、副会長と中間報告の案を固めさせていただき、第4分科会の報告案を道谷会長のほうから中間報告をしていただこうと考えている。</li> <li>・「#自称姫路市長」の取組について、委員に協力依頼。</li> </ul> <p>5 閉会（16:04）</p>